岡垣サンリーアイ図書館発行
2025.2 №338

図書館だより
２月号

オススメの新着図書

【一般向け】

『パンとペンの事件簿』
柳 広司／著　幻冬舎

文章に関する依頼であれば、何でも引き受ける「売文社」で働き始めた“ぼく”。奇妙な依頼や謎に挑み…。1910年代に実在した組織がモチーフのミステリー！

【一般向け】

『教養としてのジャズ』
村井 康司／監修　世界文化社

聴くべき名盤、343枚！1920年代から2000年代を象徴する10曲と、それぞれからつながるアルバムを紹介。音源を聴けるQRコード付き♪

【児童向け】

『それ犯罪かもしれない図鑑』
小島 洋祐／監修　金の星社

子どものちょっとした行動が、実は法を犯しているかも？冒険心やいたずら心でやってしまいそうな行動から明らかなNG行動までイラストとともに紹介！

【児童向け】

『いろいろおにごっこ』
小沢 正/著　国松 エリカ/絵　世界文化社

「いろおに」をして遊ぶ野菜や果物たち。「あか」のときは、トマトちゃんに、「みどり」のときは、ピーマンくんにさわる。「あお」のときさわったのは…？

読書会通信

【12月の読書会より】　**『花散る里の病棟』**　帚木 蓬生／著　新潮社

明治から令和まで四世代続く九州の町医者 野比家をめぐる短編集。

寄生虫駆除で評判だった初代、軍医として戦場に出た二代目、高齢者医療に尽力した三代目、コロナ禍で奮闘する四代目と、人々に寄り添った医療を心がけた姿が描かれる。

著者は昨年で中間市のクリニックを閉院した精神科医である。自身の医者としての理念が、この野比家の生き様に映し出されていると感じた。

〔近藤 美斗恵〕